東方正教会の最高の聖職が、飛行

れるのであるから、この式は正に

れているのを見た。レーニン博物

目目の復活の予象となった。イオ

の後の、日本の国内的、国際的事

鈴木なみ江

神父のご苦労が祭せられます（横浜・井沢）

教会通信

本会記事

○九月五日（金）は現大主教の聖名祭のイリネイ祭に当るので、前夜祷は勿論、当日聖体礼儀につづいてモレーベンがあり、終ってクラブでロシヤ婦人会主催の会食があった。

○九月十一日（木）は前駆イオアン致命祭の奏事があった。在京邦人神品のみで献祷。

○九月廿一日の主日は聖母誕生祭に当るので、大主教以下各神品によって祭日聖体礼儀が行われた。

○九月廿七日（土）は聖架挙栄祭に当り、前夜祭には恒例の十字架捧出の儀式が大主教によって行われ、当日は祭日聖体礼儀が執行された。

○七日の主日にはイリネイ大主教は鈴木長輔祭、詠隊帯同、修善寺教会に出張、聖体礼儀を行った。

○イリネイ大主教は前出のごとく九月九日教務で単身空路台湾に出張され、十五日夜半羽田につかれ無事帰京された。

○ニコライ学院は九月廿七日より英語科、廿九日よりロシヤ語科の秋の講習を始めた。これに先だって校舎の内外の塗装工事を完了し面目を一新した。

○新学期を迎えた神学校は九月一日モレーベンを行い、引き続き日々勉強に励んでいる。

新入生は左記の四名である。

ピーメン山本敬男（函館）
パウエル白山法昭（福岡）
フェオドラ山村久美子（広島）
エカテリナ加藤都也子（大阪）

○九月二十五日、本年神学校卒業米国に留学する牛丸康夫兄のため鵜沢首司祭司祷にてモレーベンを執行。翌二十六日午前八時、兄は神学生その他多数の見送りを受けて出発した。

宗務局記事

▲九月二日定例理事会を開き次の事項について協議した。

（一）神学校卒業生牛丸康夫兄をニューヨーク神科大学に三年間留学させること。

（二）開教百年祭について準備委員会をつくって立案企画することとし、成る可く広範囲の人材を集めることとする。

（三）伝道出版については今年度内でとりあげ実行する範囲と方法について協議し、更に具体案を練ることとした。

（四）仙台教会のイコノスタス（聖像）の件は製作費予算の都合上次年度へ継続事業と見做すことについて諒承する。

東京通信

南部

東京南部正教会では懸案の電話が九月五日より開通した。番号は次の通りである。一九局の三五〇九番（代表者武岡武夫）

神田

エカテリナ河村栄子姉永眠

九月十八日午後一時過ぎ私共の大先輩エカテリナ河村栄子姉は突如心臓の故障にて急逝されました八十三才になられますが常に若い者のまねの出来ないようなしっかりした生活ぶりであられまして、故姉こそは九十才までも百才までも私共を導いて下される方かと思って居りましたので、みんなの驚きと悲しみはたとえようもありませんでした。

故姉は明治二十六年女子神学校第六回の卒業生であられ、間もなく河村伊蔵氏に嫁し、長司祭となって夫君の永眠せられるまでよく御内助者としてつくされました。又、女子神学校の先輩として全校友を慈まれ、駿河台のお住居には校友の訪ねて居らない日とてはありませんでした。然も、姉は大聖堂の奉事用の聖パンを焼く任事を一生の御仕事とせられたのでした。

二十日午後一時から大聖堂に於て大主教司祷にて埋葬所祷が捧げられました。在京校友の大半が伝え聞いて参列、宗務局、女子神学校々友会、ロシヤ婦人会、神田教会、神田婦人会、連合婦人会有志その他の生花が捧げられ、鵜沢宗務局長の弔辞は故姉の生涯をたたへられ感銘深きものがありました。

かくして神学生、遺族、知友に抱かれた柩は聖大主の聖歌に送られて、七十年住み馴れた駿河台をふりかへり見らるるかの如く霊柩車に移られ、夕刻、雑司ケ谷の夫君のかたわらに永い眠りにつかれました。姉のためどうぞ御祈祷を御願いたします。

（真鍋記）

宗務局員

（在京）		
宗務局長	首司祭	鵜沢　徳寿
宗務局部長		
教務部長	長司祭	吉村　忠三
聖務部長	〃	太田磯四郎
財務部長	司祭	新妻　光三
庶務部長	〃	武岡　武夫
理事		鎌田　悦郎
〃		高橋登美哉
〃		真鍋　理徒
〃		村上　友吉
会計監督		鈴木　直路
〃		太田　猛夫
顧問		山田　晟
〃		歌橋　憲一
〃		釘宮　磐
会計		にえ川　善作
（地方）		
理事	長司祭	浅野　島生
〃	〃	山田以利亜
〃	〃	大沢　正
〃		近藤伊太郎
〃		高橋　丈夫

地方通信

横浜

九月二十三日秋分の日は、例年通り総パニヒダを行い（午前十時より）終って宗谷の守田兄により南極観測の記録映画とお話の会を催した。

青年会は毎月常会を開くことに決し、九月は廿三日に行った。なお同会発行の「教会だより」は九月に第二七号を出した。

函館

函館教会だより

（イ）公会状況報告

七月二十日公祈祷後講堂において臨時信徒総会を開き、近藤神父より本年度における公会の状況及び決定事項に関する詳細な報告があった。

（ロ）開教百年祭記念事業計画

七月二十七日臨時議友会を開き百年祭記念事業の一つとして戦争に依り失った六つの聖鐘に代る施設として「オルゴール」の設置を具現する事になり、募金運動開始の申合せをした。

尚別に婦人会では右記念事業と併行して聖堂の美化、特に堂内のゴザの取替を実現する事を申合せ八月より特別積立金の拠出に着手した。

（ハ）伝教者受入れ態勢の整備

教勢伸展のため、昭和三十四年度公会に伝教者の派遣を請願する事を予定し、その受入れ態勢を整備するため具体的事項の申合せを行った（七月二十七日於議友会）

◇教室内夏季巡回

公会状況報告を兼ね、八月十二日より十日間にわたり近藤神父は上磯、黒松内、中の川、静狩、長万部、今金、八雲、森等に散在する兄弟を訪問、所要の聖務を併せ夏季巡回を実施した。

◇札幌教会訪問

八月十六、七の両日、札幌教会に於て開催せられた同会創立七十週年等の記念式講に近藤神父も招かれ、所要の聖務に参与した。

◇神学生の奉仕

休暇のため帰省中のイオフ馬場神学生は、祈祷及び日曜学校の指導等に好く奉仕し、また近藤神父の指導の許に代式祷の実地奉献も行い、教区内信徒の信頼を深めた。

札幌

札幌正教会創立七十周年記念と猪狩長司祭叙聖二十五周年記念祝典八月十七日の主日、当聖堂の祭日にも当る主の顕栄祭の祈祷が行われた。当日はなお当教会の創立七十周年に当り、これに叙聖以来二十五年を数える猪狩長司祭の叙聖記念をも兼ねて盛大な祭典が催された。当祭日と記念祝典のために道内は勿論、当教会に関係ある方々にあらかじめ通報し、祈祷には特に函館の近藤長司祭を遠路招いてより盛大な祭典を計画した。

当日は期待にそむかず当教会の創立記念と猪狩長司祭の長い間の御尽力に感謝しようとする人々が遠くは函館、釧路より小樽、旭川苫小牧等の地方からも続々とつめかけ、大祭を思わせる程のにぎやかさであった。祈祷は十時から近藤、猪狩両司祭によって始められた。祈祷中、近藤司祭の「互いに愛し各人が教を伝える人となって教会のために務めよ、それによっ

こりと痛みに！

肩こり・腰の痛み・うちみ
くじき・神経痛・リウマチ
頭痛・歯痛・扁桃腺炎
乳腺炎・運動後の筋肉疲労

イチバン

12枚入　50円
30枚入　100円

ニチバン
日絆薬品工業株式会社